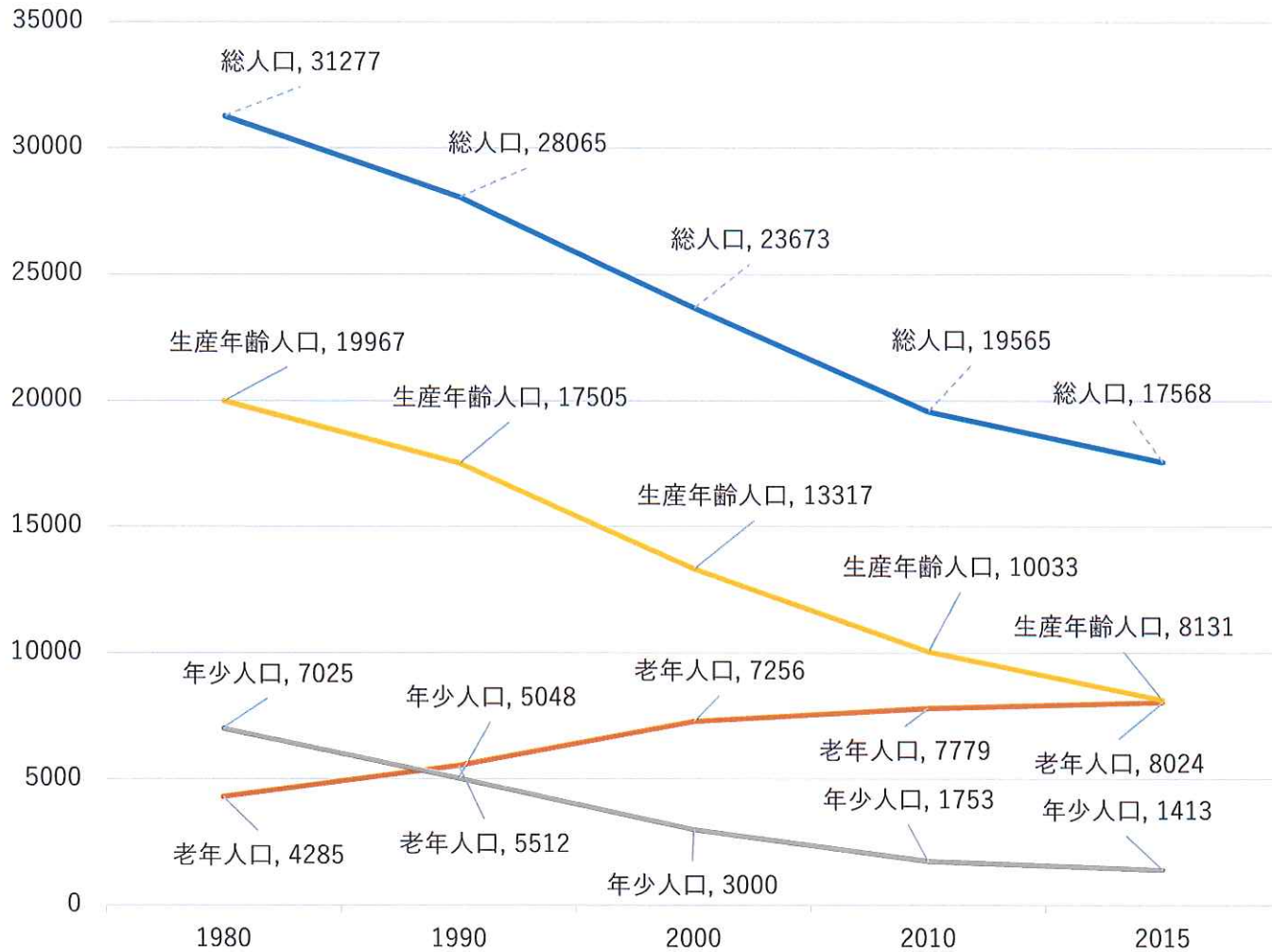


能登町産業等基礎調査報告書

この調査報告書は、農林水産省「わがマチ・わがムラ」及び経済産業省「地域経済分析システム（RESAS）」の統計データを利用して、能登町の産業等の状況についてわかりやすくまとめたものです。

平成31年3月29日
能登町商工会

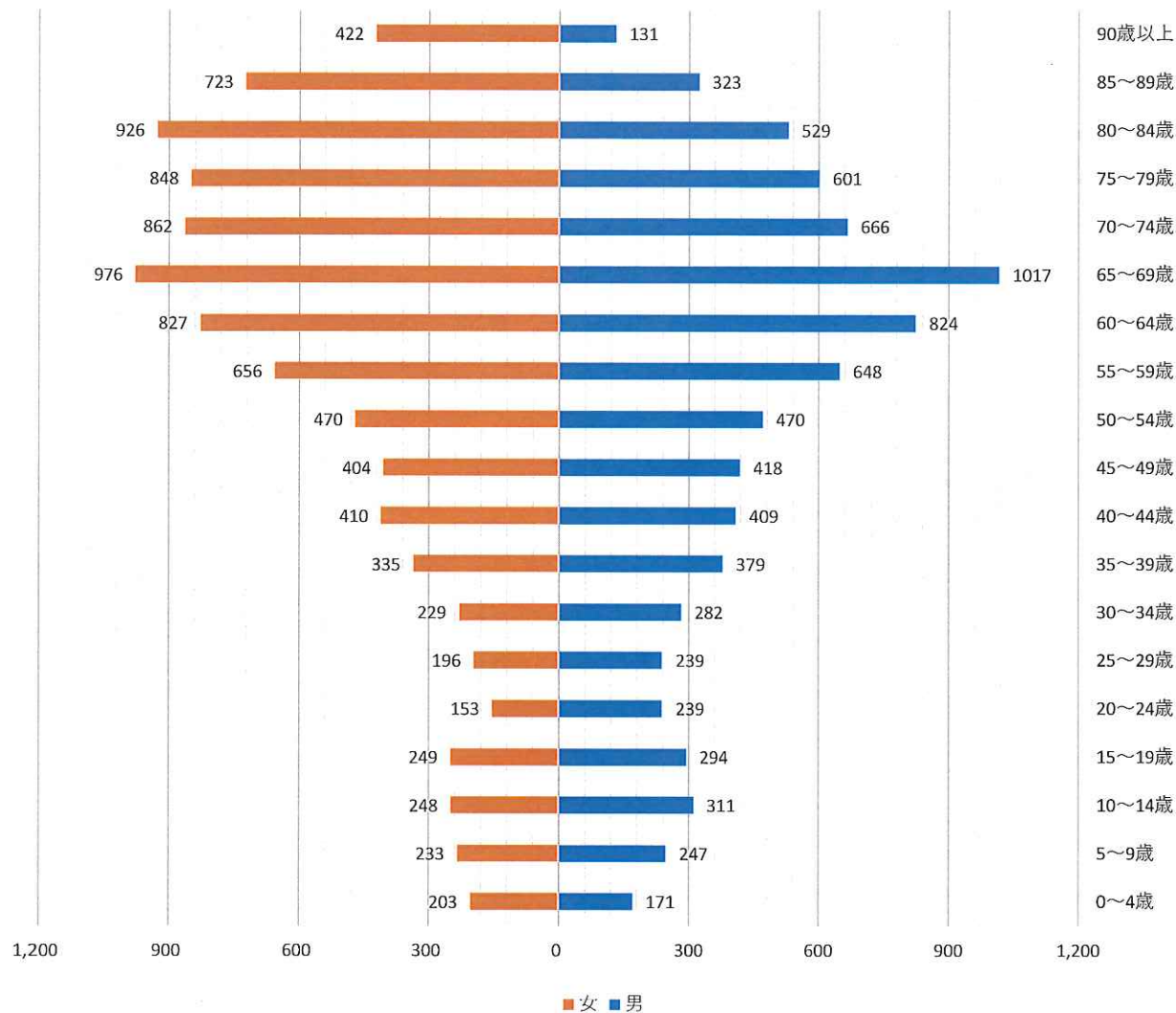
人口推移 単位：人



2015年の能登町人口は17,568人。内訳は男性8,198人、女性9,370人となっている。総人口、生産年齢人口及び年少人口は減少の一途を辿っており、歯止めがかからない状態である。一方で老年人口は増加している。当町の総人口は長期に渡って減少が続き、2045年には7,259人となる。年少人口は、少子化の進展に伴い、総人口と同様に減少が続き2045年には415人と2015年(1,413人)の約30%に減少する。生産年齢人口は、総人口及び年少人口と同様に減少が続き、2045年には2,649人と、2015年(8,131人)の約32%に減少する。老年人口は、変動が少ないが、全体としては徐々に増加傾向が続き、2045年には4,192人と、2015年(8,024)のおおよそ半分が減るが、総人口の58%を占める状態となることが予測される。

生産年齢人口：15歳以上65歳未満の人口
 年少人口：15歳未満の人口
 老年人口：65歳以上の人口

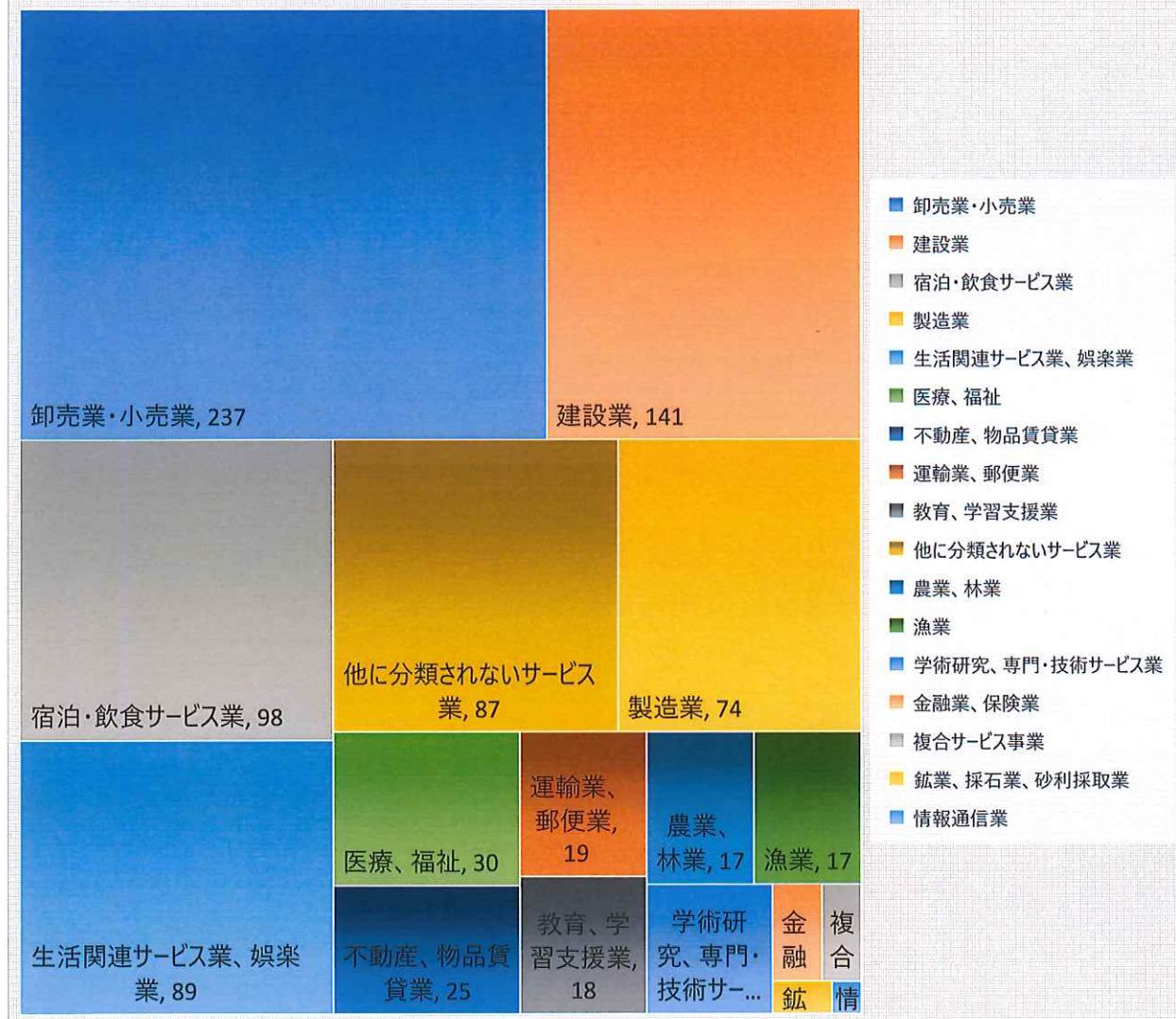
2015年 人口ピラミッド 単位：人



老年人口(65歳以上)：8,024人(45%)
 生産年齢人口(15歳～64歳)：8,131人(46%)
 年少人口(0歳～14歳)：1,413人(8%)
 人口の2.2人に1人が65歳以上、4人に1人が75歳以上で、高齢人口と生産年齢人口の比率は、1対1.01となっている。つまり、1人の青年・壮年・中年が1人の65歳以上の高齢者を支えていく社会になっている。

出産や子育ての中心となる若い女性に着目すると、20歳～39歳の人口は349人で、総人口に占める割合は2%です。10年前（2005年）の同世代の女性数609人に比べると260人42%の減少、また2010年の391人に比べると42人10%の減少となる。

産業構造【企業数】 2016年 単位：社



2016年企業数(企業単位)：881社
 当町の産業の現状は、町内企業数でみると、

第1次産業企業数が34社/3.8%

第2次産業企業数が454社/51.3%

第3次産業企業数が393社/44.9%

である。

主な業種の内訳は以下のとおり

建設業

- ・総合工事業73社 (51.8%)
- ・職別工事業(設備工事業を除く)43社 (30.5%)
- ・設備工事業25社 (17.7%)

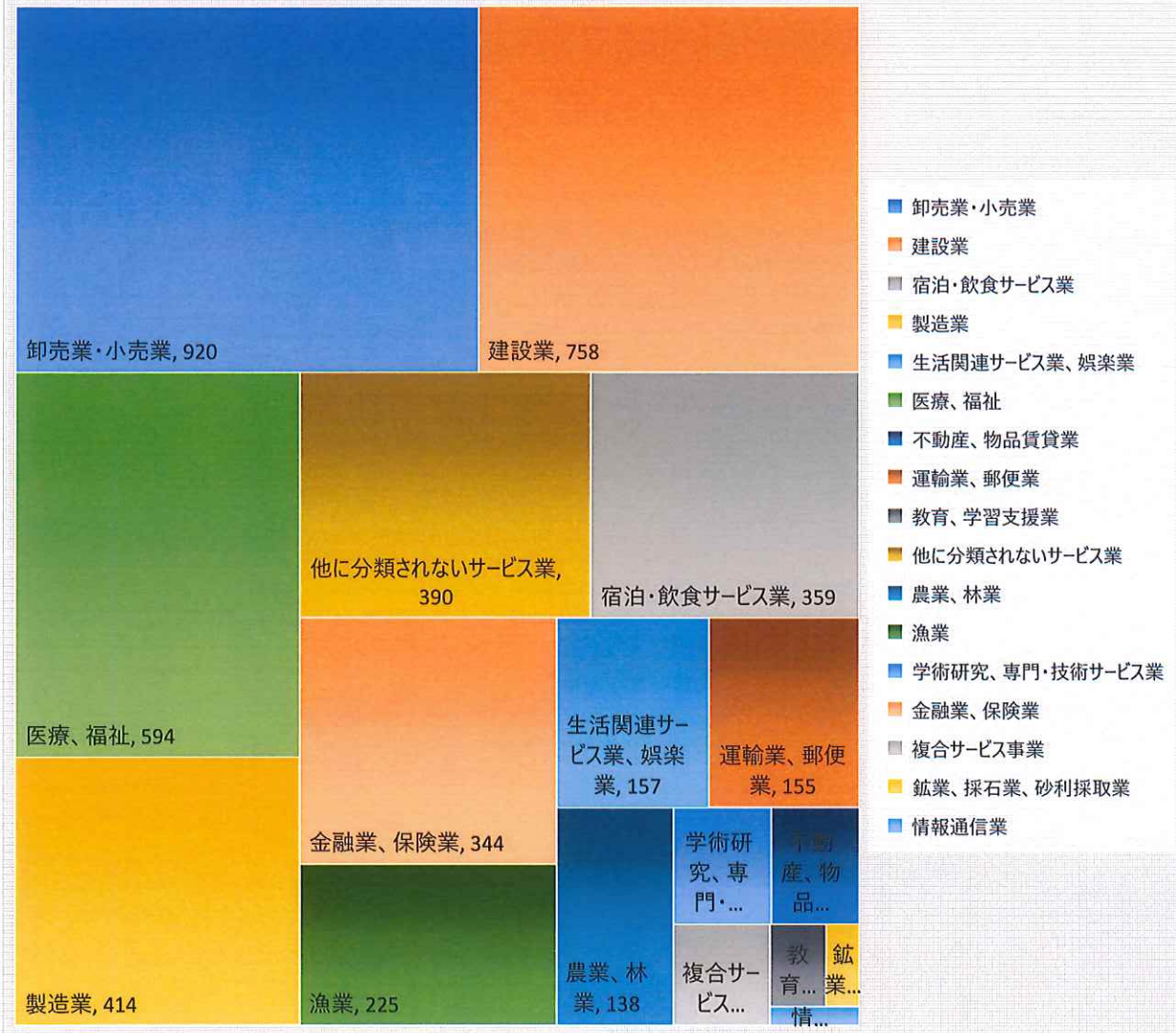
製造業

- ・食料品製造業28社 (37.8%)
- ・飲料・たばこ・飼料製造業5社 (6.8%)
- ・金属製品製造業5社 (6.8%)
- ・窯業・土石製品製造業5社 (6.8%)

卸売業・小売業

- ・飲食料品小売業84社 (35.4%)
- ・機械器具小売業33社 (13.9%)
- ・織物・衣服・身の回り品小売業18社 (7.6%)

産業構造【従業員数】2016年 単位：人



2016年従業員数数：4,674人

当町の産業の現状は、従業員数でみると、第1次産業従業員数数が363人/7.8%第2次産業従業員数が2,107人/45.1%第3次産業従業員数が2,204人/47.1%である。

主な業種の内訳は以下のとおり

建設業

- ・総合工事業407人（53.7%）
- ・職別工事業(設備工事業を除く)225人（29.7%）
- ・設備工事業126人（16.6%）

製造業

- ・食料品製造業193人（46.6%）
- ・繊維工業91人（22.0%）
- ・飲料・たばこ・飼料製造業29（7.0%）

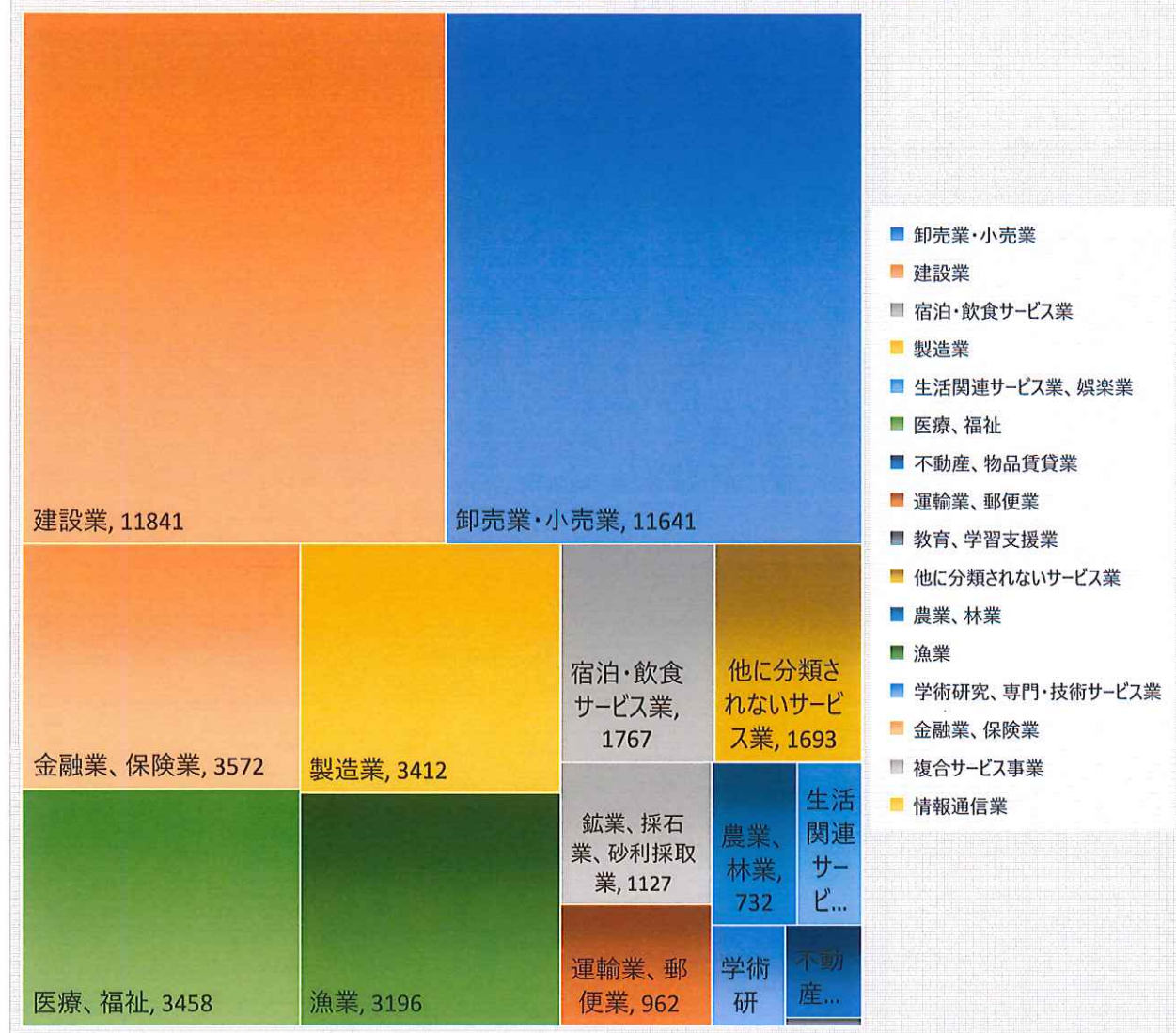
他

卸売業・小売業

- ・飲食料品小売業329人（35.8%）
- ・機械器具小売業149人（16.2%）
- ・建築材料、鉱物・金属材料等卸売業30人（3.3%）

他

産業構造【売上高】 2016年 単位：百万円



2016年売上高(企業単位)：45,108百万円
 当町の産業の現状は、売上高でみると、
 第1次産業売上高が3,928百万円/8.7%
 第2次産業売上高が26,894百万円/60.1%
 第3次産業売上高が14,286百万円/31.21%
 である。

主な業種の内訳は以下のとおり

建設業

- ・総合工事業6,423百万円 (54.2%)
- ・職別工事業(設備工事業を除く)3,793百万円 (32.0%)
- ・設備工事業1,624.0百万円 (13.7%)

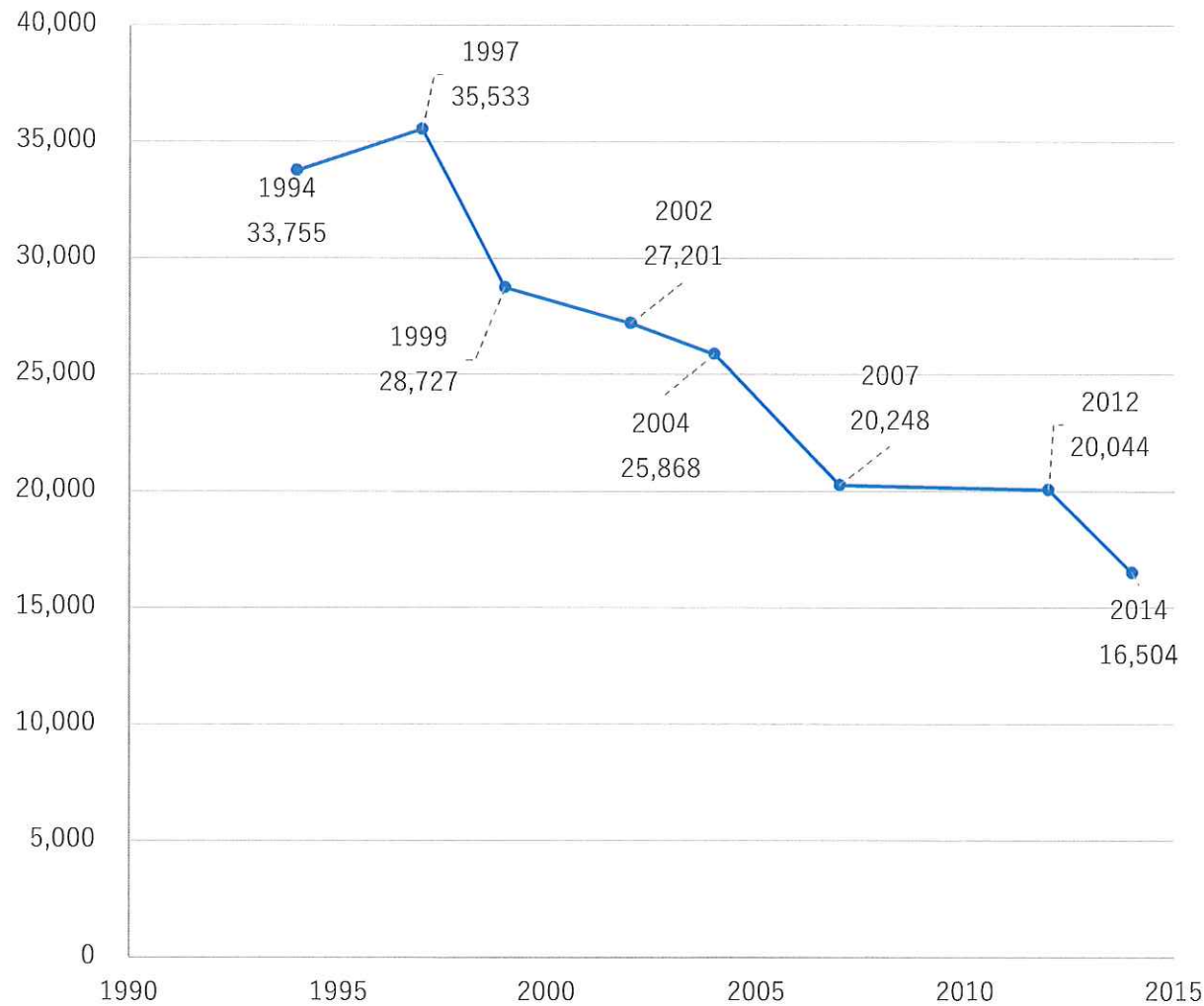
製造業

- ・食料品製造業1,861.0百万円 (57.2%)
- ・飲料・たばこ・飼料製造業341.0百万円 (10.5%)
- ・繊維工業298.0百万円 (9.2%)

卸売業・小売業

- ・飲食料品小売業3,423.0百万円 (30.1%)
- ・飲食料品卸売業1,628.0百万円 (14.3%)
- ・機械器具小売業1,931.0百万円 (17.0%)

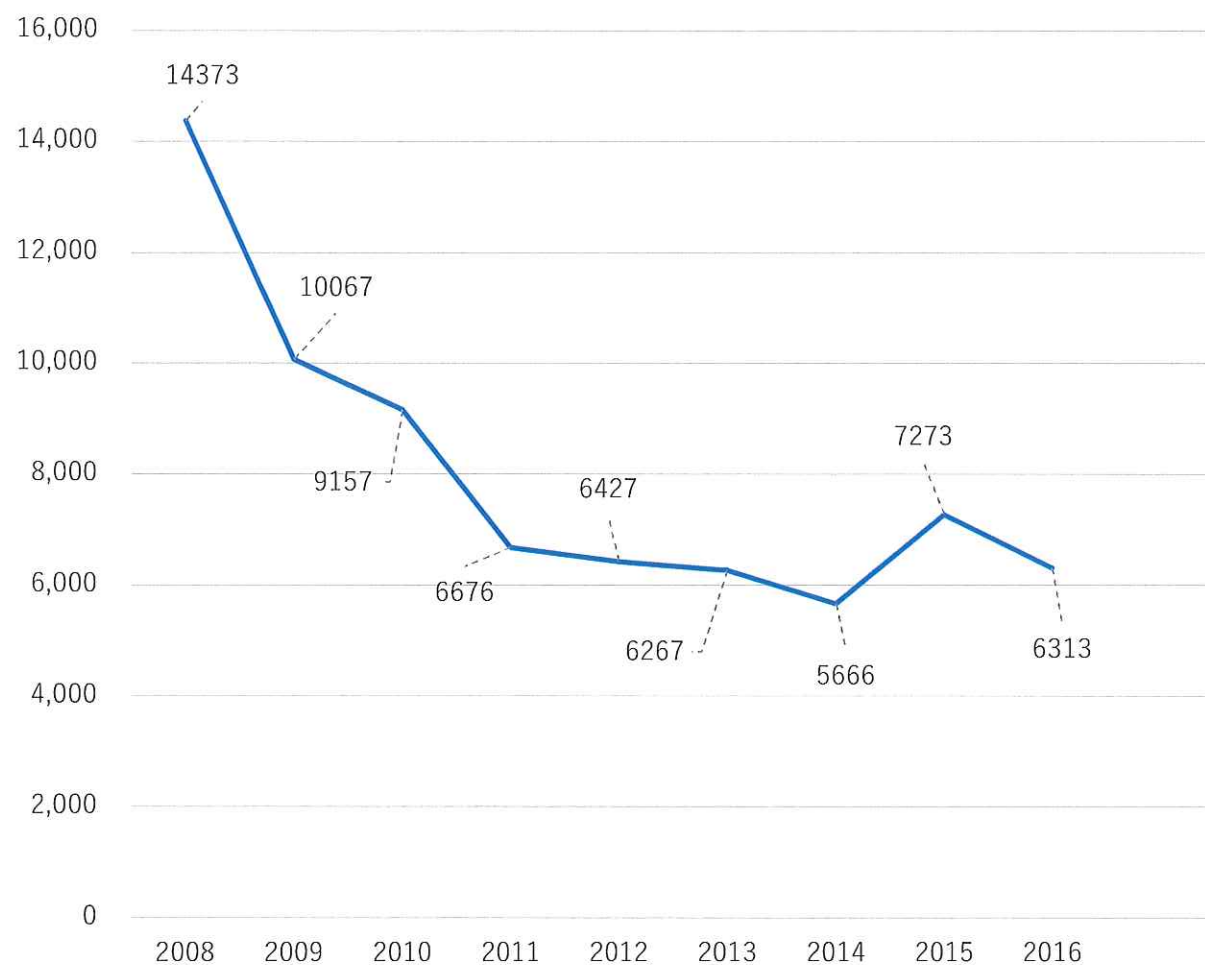
小売業・卸売業年間商品販売額 単位：百万円



2014年の小売業・卸売業の年間販売額は16,504百万円。小売業商品販売額は13,797百万円、卸売業商品販売額は2,707百万円であった。小売業・卸売業事業所数は275事業所（小売業事業所数は247、卸売事業所数は28）で1事業所当たりの年間商品販売額は60百万円であった。事業所数は1994年の553に比べると278事業所・50%の減少となっている。

商品販売額は2012年に比べると3,504百万円・17%の減少となっている。1997年と比べると19,029百万円・53%の減少となっている。

製造業製造品出荷額等 単位：百万円

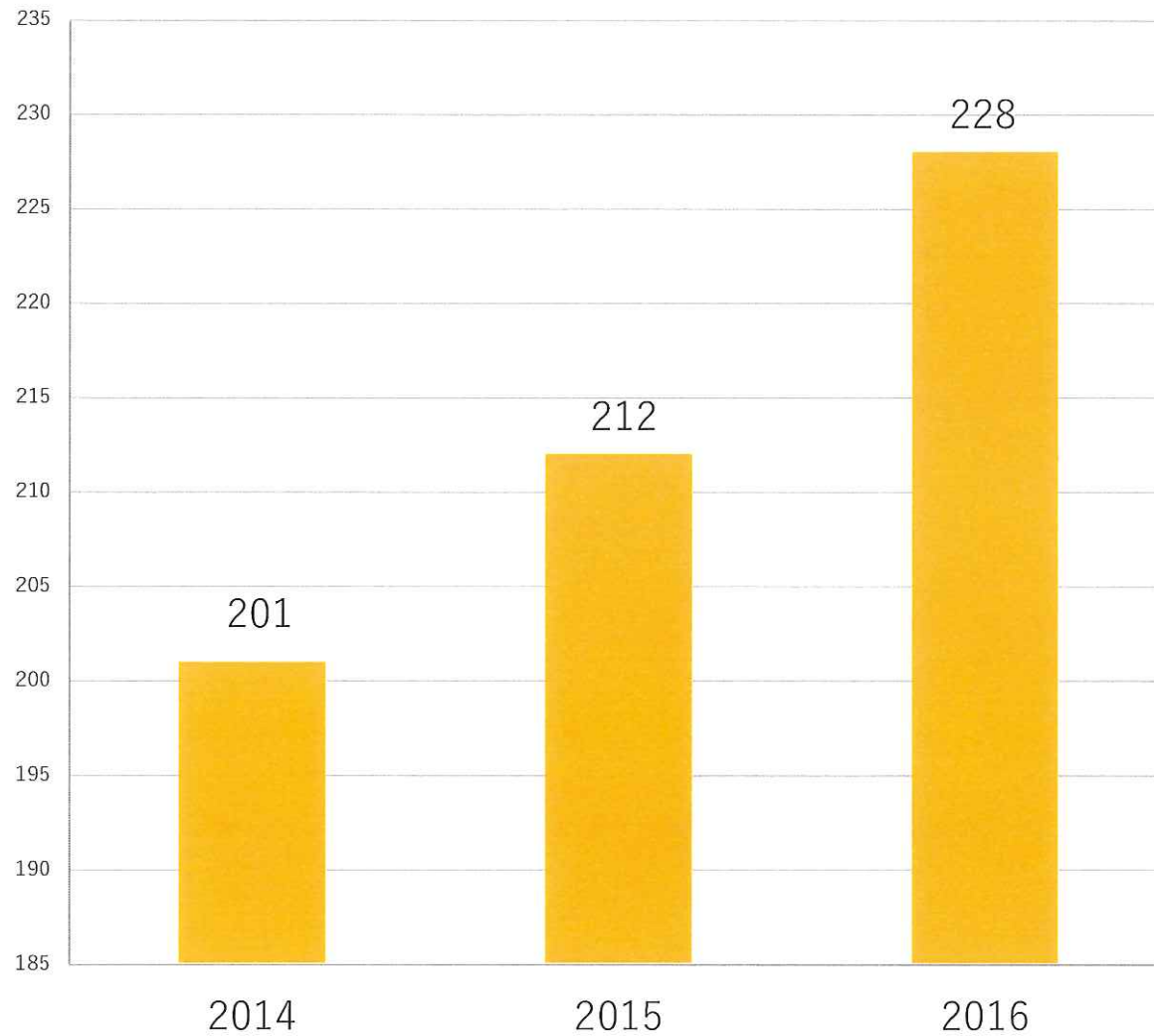


2016年の製造品出荷額は前年比13%減の6,313百万円だった。
事業所数は34で1事業所あたりの出荷額は185百万円だった。

事業所数内訳は以下のとおり

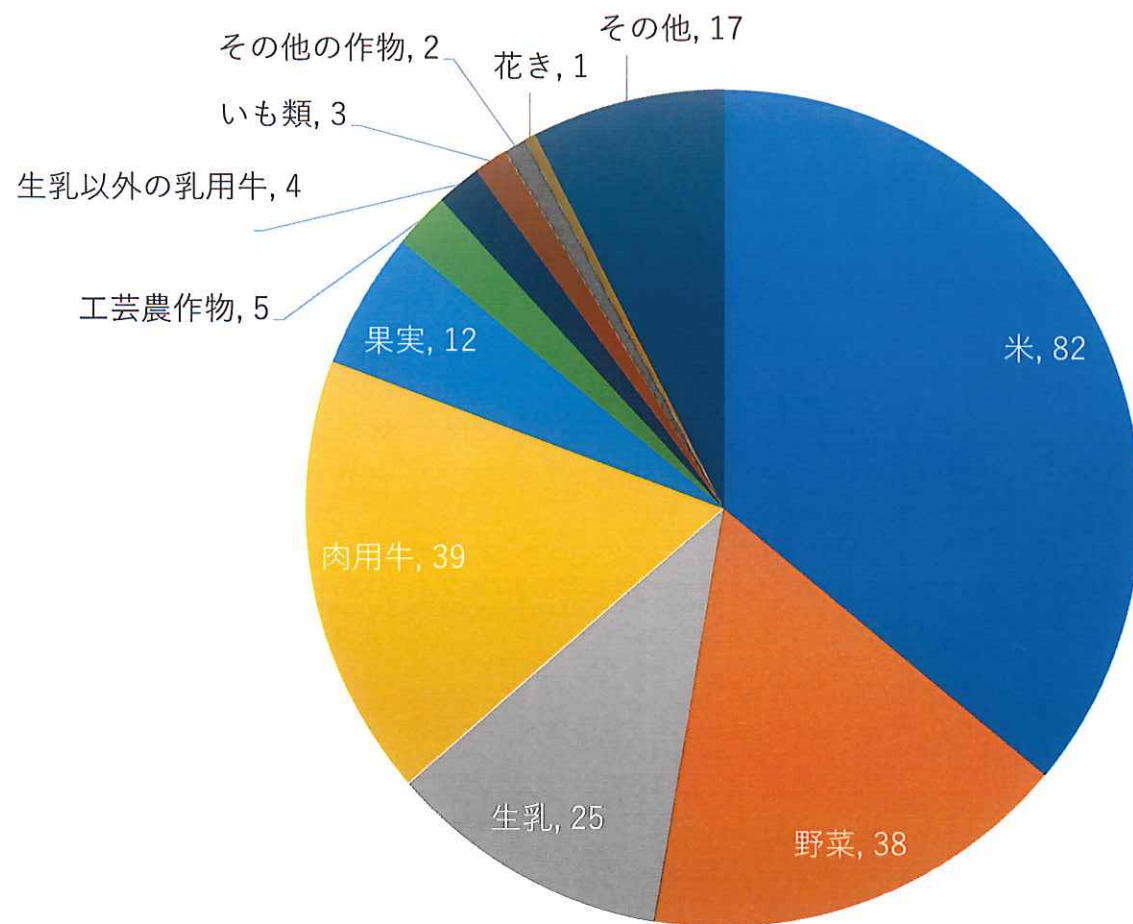
商品製造業	14
窯業・土石製品製造業	5
繊維工業	4
金属製品製造業	3
飲料・たばこ・飼料製造業	2
電子部品・デバイス・電子回路製造業	1
はん用機械器具製造業	1
その他の製造業	1
プラスチック製品製造業	1
電気機械器具製造業	1
木材・木製品製造業（家具を除く）	1

農業産出額 単位：千万円



当町の農業産出額は2016年で228千万円となり、2014年に比べて27千万円増、約12%アップとなっている。増加傾向にあるといえる。能登牛や米、能登野菜等の生産振興や消費の拡大、ブランド力の向上が農業産出額増加の要因ではないかと思われる。

品目別農業産出額 2016年 単位：千万円



品目別にみると、増加している主な品目は米、野菜、果実、肉用である。米は2016年に82千万円となり、2014年に比べて7千万円増加した。野菜は2016年に38千万円となり、2014年に比べて8千万円増加した。2016年の肉用牛は39千万円となり、2014年に比べて8千万円増加した。豆類、農芸工作物、その他の作物は2014年比べて減少した。

農業産出額 畜産計 2016年

86千万円

肉用牛	39千万円
乳用牛	29千万円
(乳用牛うち生乳 25千万円)	(25) 千万円
豚	X千万円
鶏	1千万円
(鶏うち鶏卵)	(X) 千万円
(鶏うちブロイラー)	(-) 千万円
その他畜産物	X千万円
加工農産物	-千万円

－/皆無又は定義上該当数字がないもの

X/数値を公表しないもの（数字が秘匿されているもの）

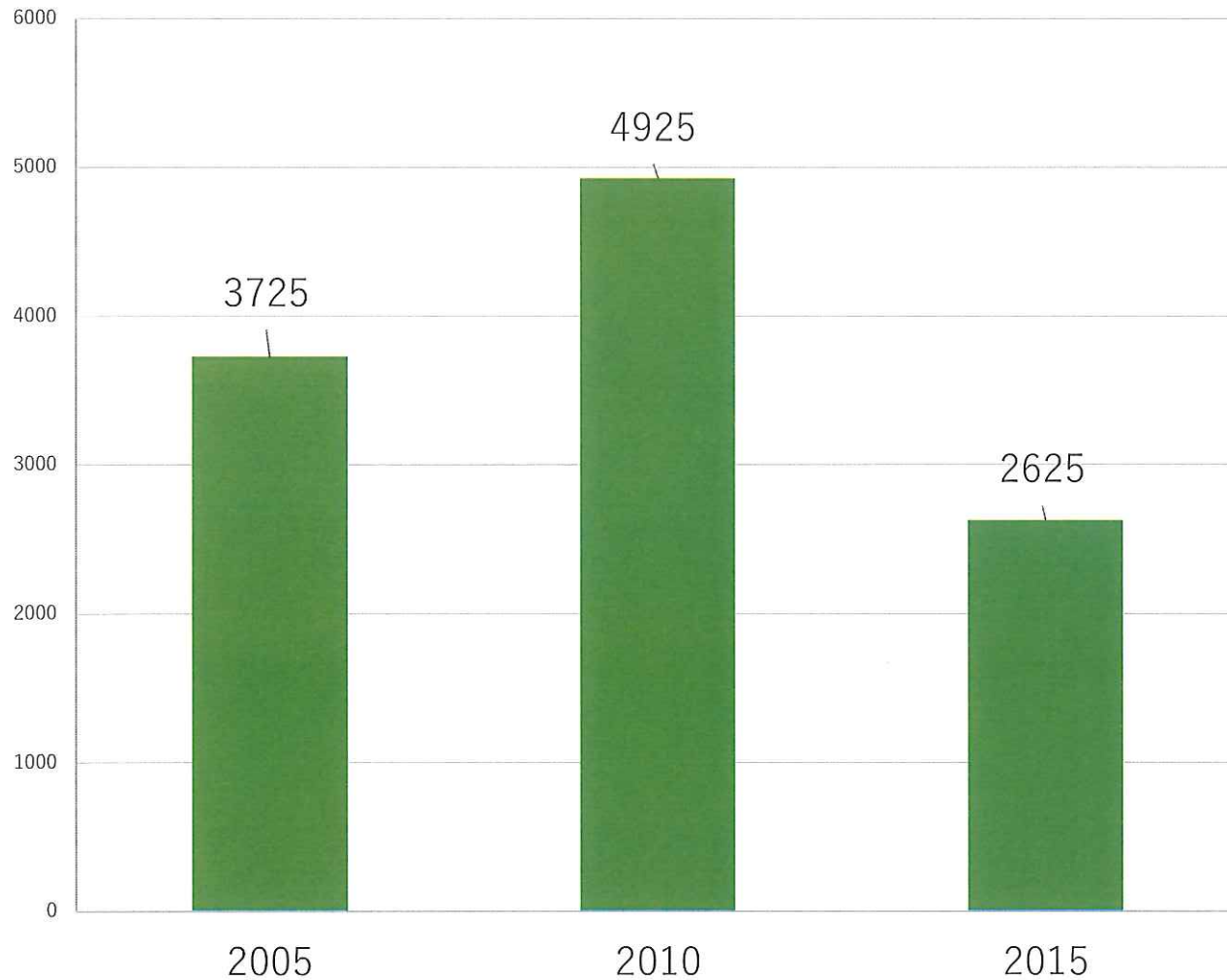
肉用牛は2014年には31千万円、2015年には36千万円、2016年には39千万円と順調に増加しているといえる。

平成7年に「能登牛」の認定が始まり国・県の支援が進んでおりその効果が出ていることも増加傾向に関係してると思われる。

乳用牛は2014年には25千万円、2015年には26千万円、2016年には25千万円と横ばい傾向にある。

乳以外の乳用牛は2014年には4千万円、2015年には2千万円、2016年には4千万円と概ね横ばいであるといえる。

林業総収入 単位：万円

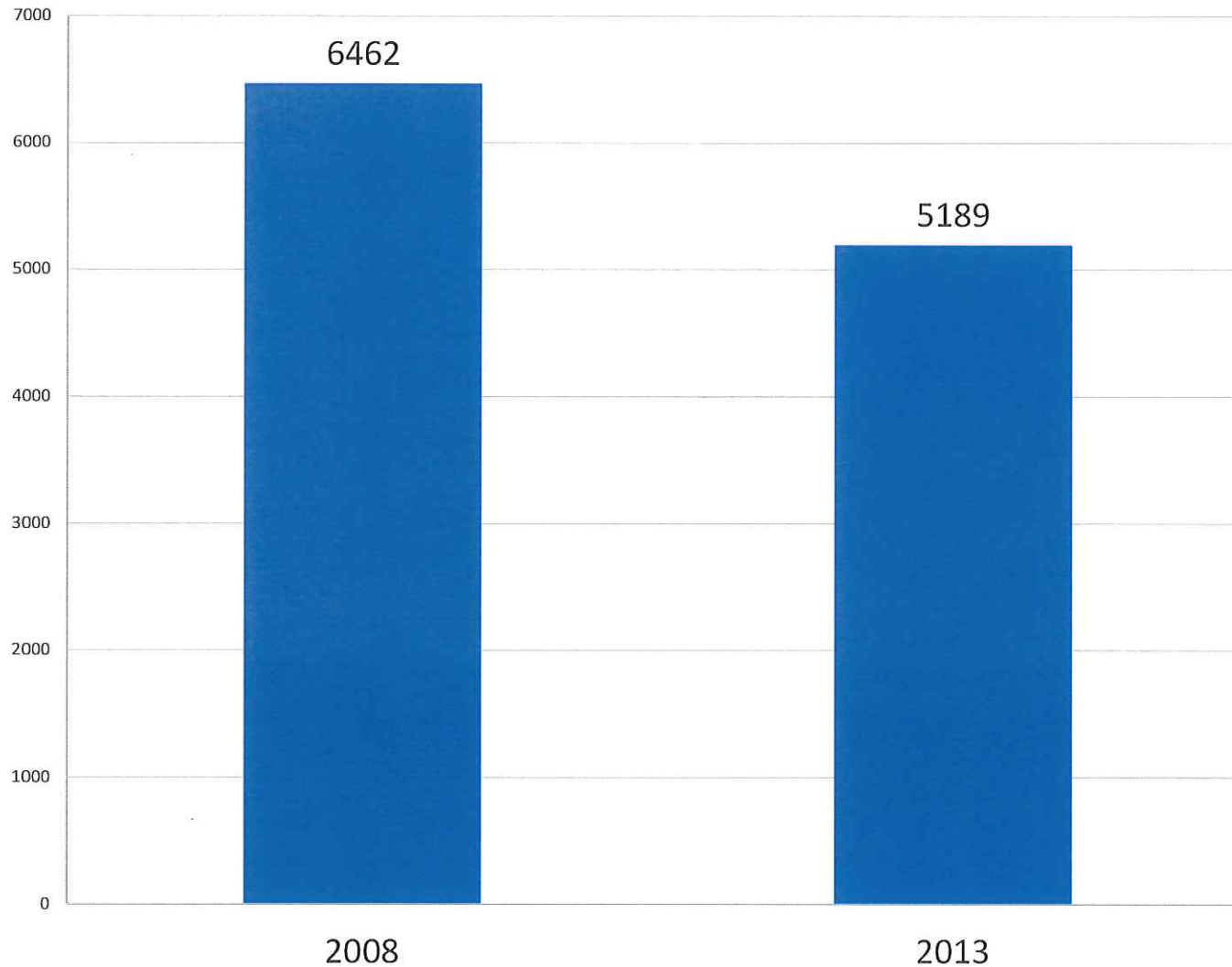


2015年の当町の森林面積は20,345haで石川県森林面積の7.3%である。林業総収入（林業総収入＝林産物販売金額＋林業作業請負収入）は2015年で2625万円となっている。経営体当たりの林産物販売物金額は減少傾向、経営体当たりの林業作業請負収入は増加傾向にある。

林業作業請負収入とは、林作業を請け負ったことにより得た収入をいい、諸経費、人件費を差し引く前の金額をいう。

町内ではきのこ類・木竹炭等の生産が行われている。このうちシイタケについては、超大型の原木生シイタケ「のと115」のブランド化(のとてまり)を推進するため生産者、JA、県・市町等による協議会を設立し、生産と販売が一体となった取り組みが行われている。

漁業 海面漁獲物等販売金額 単位：百万円)



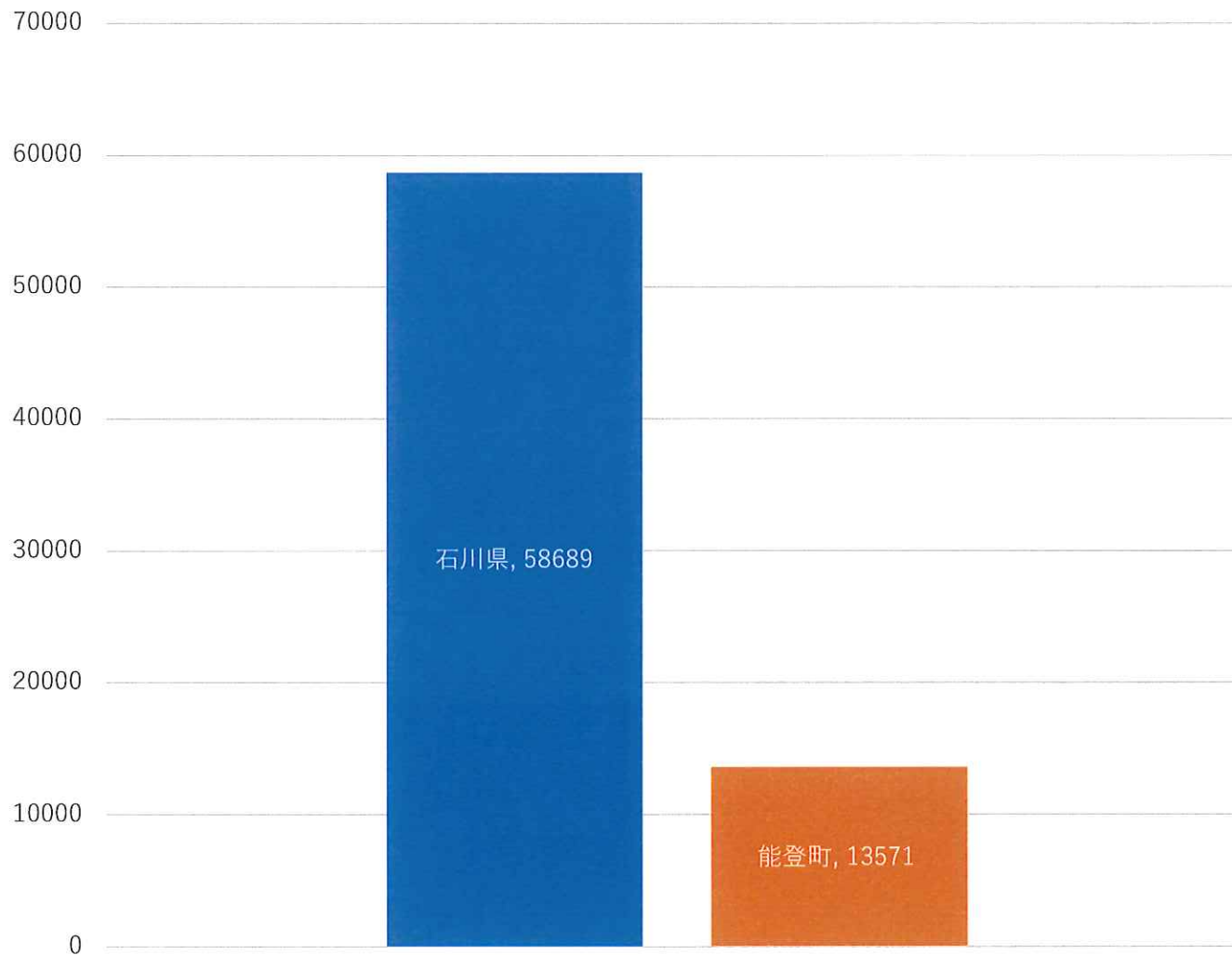
能登町の海面漁獲物販売金額は2013年で5,189百万円となっており、2008年の6,462百万円と比べて金額で1,273百万円・約20%の減少となっている。

定置網で漁獲される、いわし類、あじ類、さば類等は全般的に資源減少にともない水揚量は減少傾向にある。

また、本州日本海最大の冷凍スルメイカの水揚げ港である小木港で水揚げされる生鮮スルメイカの水揚量についても1990年代中頃以降、減少傾向にある。さらに近年は北朝鮮とみられる違法イカ漁による影響も大きいと見られる。

ブリは1990年代以降の海洋の温暖化にともない、水揚量は増加する傾向にある。今シーズン(2018~2019)はここ数年でトップクラスの水揚げをあげ豊漁となった。

漁獲量 2016年 単位：トン

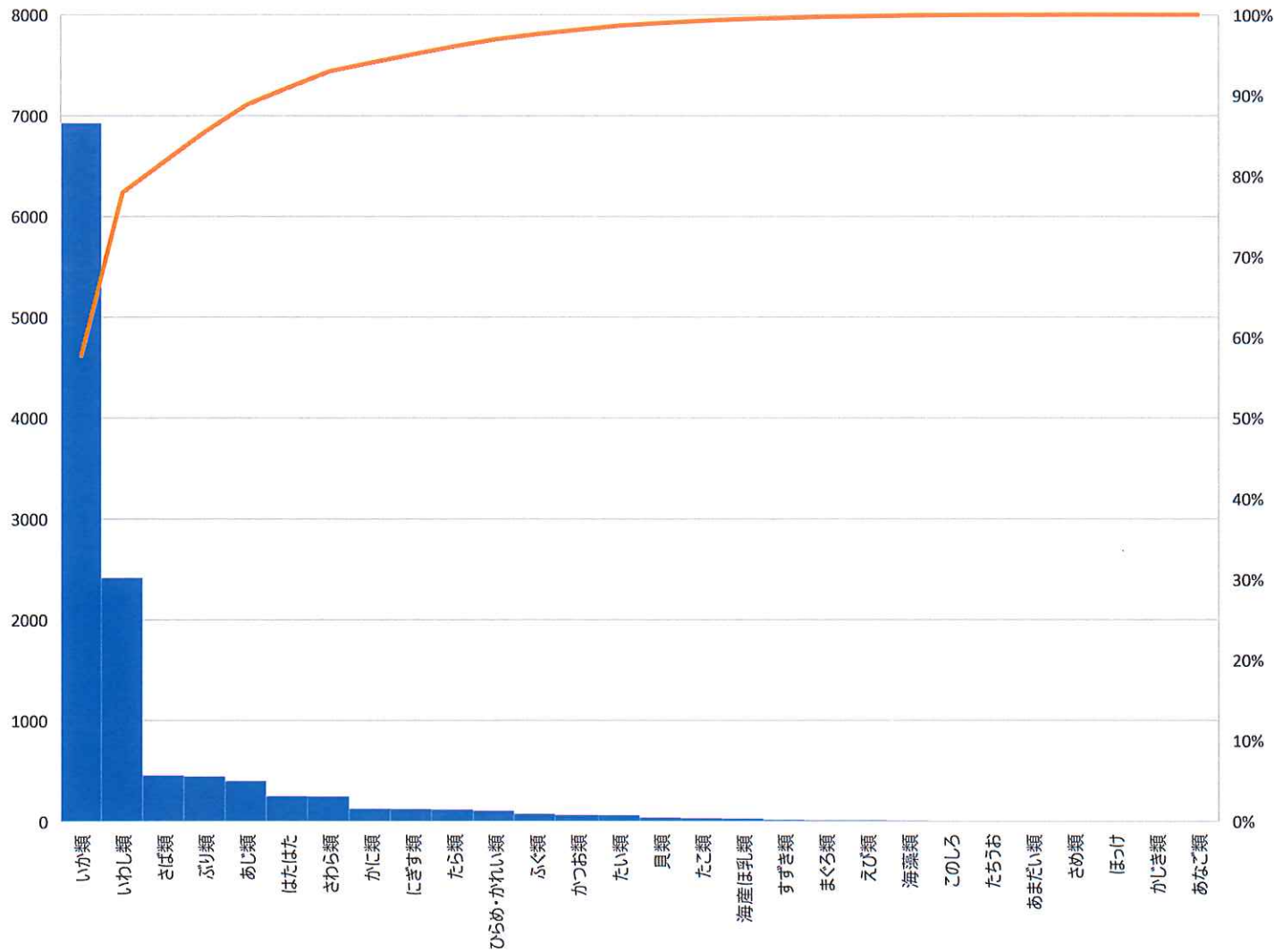


2016年(平成28年)の当町の漁獲量は13,571トンとなっており、石川県全体の漁獲量の約23%を占めている。

石川県全体の漁獲量は減少を続けている。

石川県漁獲量 単位：トン	
H15	90,547
H18	79,173
H21	64,632
H24	60,280
H26	58,919
H28	58,689

魚種別漁獲高 2016年 単位：トン



2016年の当町の漁獲高は13,571トンであり、魚種別の漁獲高でみると、いか類で5,929トンと最も高く、次いでいわし類2,418トン、さば類458トン、ぶり類446トン、あじ類400トンの順になっている。

いか類は全体の約51%を占め、漁獲量上位5魚種で10,651トンで約78%となる。